

研究内容

環境保健医学は、衛生学・公衆衛生学を基本科目として幅広い学問領域を包含する。従って、研究領域も幅広く、ヒトの健康に関するものであれば、どのようなことでも研究テーマとして扱うことができる。

当講座に所属する教員・大学院生が取り組んでいる研究分野は「実験研究」と「疫学・臨床研究」と大きく二つに分かれる。

実験研究のグループは、化学的な問題として化学物質の毒性、変異原性、発がん性について、栄養学的な問題として必須微量元素の生体への役割とそれらの過不足に伴う健康障害について、動物実験を中心に研究活動を行っている。

疫学・臨床研究のグループは、生活習慣病予防、自殺予防、過重労働対策、メンタルヘルス対策、治療と就労の両立支援、ヘルスコミュニケーション、神経皮膚症候群、更年期障害、高気圧障害（減圧症）など、さまざまなテーマで研究活動を行っている。また、臨床（介入）研究にも積極的に取り組み、健康増進と疾病予防に役立つエビデンスの構築とそれらの効果的還元について検討している。

研究課題は下記項目に必ずしも限定せず、衛生・公衆衛生領域でヒトの健康に関する興味あるテーマであれば、どのようなテーマでも取り組むことが可能である。

4年間の大学院期間中に、研究の取りまとめと論文の作成、そして学位申請を行うように指導する。

研究課題

実験研究

- ① 生活習慣病や各種疾患の発癌リスクアセスメントに関する研究
- ② 必須微量元素の役割に関する研究（特に亜鉛の欠乏・過剰が生体に及ぼす影響）
- ③ 化学物質の毒性、変異原性、発がん性に関する研究（特にナノ粒子の変異原性、ダイオキシンによる水腎症発症の機序）
- ④ 中毒性腎症の発症・進展の機構とその進展阻止に関する研究
- ⑤ 過重労働や疾病が疲労を誘導する機序に関する研究
- ⑥ 食品成分によるがん予防に関する研究

疫学・臨床研究

- ① 健診データの分析と評価
- ② 健康づくりのポピュレーション戦略に関する研究
- ③ 自殺予防に関する研究
- ④ 過重労働対策に関する研究
- ⑤ 治療と就労の両立支援モデルの構築
- ⑥ ヘルスコミュニケーションに関する研究
- ⑦ 神経皮膚症候群の疫学調査
- ⑧ 更年期障害の疫学調査
- ⑨ 高気圧障害（減圧症）に関する研究
- ⑩ オーダーメイド予防医学を構築するための基礎的研究

教育目標

- ① 医学の基礎となる生命科学全般に関心を持たせる。
- ② 研究者としての基本的スキルとマナーを身につけさせる。
- ③ 研究データの収集・解析に必要な疫学的知識と統計学的手法を習得させ、自ら実施できるようにする。
- ④ 学術情報センターを利用して関連領域の文献情報の検索方法を身につけさせる。

到達目標

- ① 研究課題の目的、作業仮説、研究計画を作成できる。
- ② 研究結果をまとめて、学会発表、論文（英文）作成できる。
- ③ 衛生学・公衆衛生学領域について広く知識を広める。
- ④ 学会に参加し、関連領域の研究者と意見交換できる。
- ⑤ 独創的な研究を自力で考案し遂行できる能力を持つ。

STAFF

教授 柳澤 裕之
須賀 万智

講師 与五沢真吾
吉岡 亘

問合せ先

柳澤 裕之

03-3433-1111（内線2270）

hryanagisawa@jikei.ac.jp